

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
構造及び性能(シャシ)	講義		2	4	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	平敷 義和
			40	68		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車シャシの基礎、基本に関する機構学や構造について学習することで探究心を高め技術の向上に役立てる。
使用教科書・副教材等	三級自動車整備士 総合(日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士 総合(日本自動車整備振興会連合会) 各章及び学習内容に応じたプリント(教材) 国家整備士試験過去問(副教材)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	授業態度	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 概要	4	シャシの概要、クラッチ装置概要、名称と構造の理解を深める。	①～②
		② 動力伝達装置 *クラッチ *トランス・ミッションM/T *プロペラ・シャフト *ファイナル・ギヤ *ドライブ・シャフト *タイヤ及びホイール	5	トランス・ミッションの概要、名称と構造の理解を深める。	
			6	プロペラ・シャフト及びファイナル・ギヤ概要、構成名称と構造の理解を深める。	
			7	ドライブ・シャフト概要、名称と構造の理解を深める。	
			8	タイヤ&ホイールの概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
	後 期	③ アクスル及びサスペンション *シャシ・スプリング *ショック・アブソーバ スタビライザ *フロント&リヤサスペンション	10	スプリング、アブソーバ、スタビライザの概要、名称と種類、構造の理解を深める。	③～④
			11	フロント及びリヤサスペンション、ホイール・アライメント概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
		④ ブレーキ装置 *油圧、エア・ブレーキ *安全装置、ABS 制動倍力装置、etc	12	ブレーキ概要、油圧式ブレーキ、安全装置、制動倍力装置、パーキング・ブレーキ、ABS、エア・油圧式ブレーキ、フル・エア・ブレーキ、エキゾースト・ブレーキ等の概要、種類と名称、構造の理解を深める。	
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントを使用し原理や作動の講義を行います。
単品部品等を用意し現物確認をしながら教科書や自動車整備士過去問との関連を含め理解させる。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
構造及び性能(エンジン)	講義		3	3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	清水 耕児
			60	57		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	エンジンの基礎と新機構の構造や作動についての基本に関することを理解すると同時に、特にガソリンエンジンを中心に実際に活用できる能力を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習の取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① エンジンの基礎 ② ガソリン・エンジン本体 ③ 潤滑装置 ④ 冷却装置 ⑤ 燃料装置	4	ガソリンエンジンの概要、基礎を学習することで導入のきっかけを作り、エンジン本体を学習することで今後の原動機の構造の複雑な機構 に対応できる様にする。	①～⑤
			5		
			6	潤滑装置の概要、名称と構造及び作動の理解を深める。	
			7	冷却装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
			8	燃料装置の概要、構造、作動について理解を深める。	
	後 期	⑥ 点火装置 ⑦ 吸排気装置及び過給機 ⑧ 電子制御装置 ⑨ 可変バルブ機構 ⑩ 排出ガス	10	燃料装置の概要、構造、作動について理解を深める。 吸排気装置の概要及び吸排気装置の構造、機能について理解を深める。	⑥～⑩
			11		
			12	電子制御装置の燃料噴射制御、点火時期制御、アイドル回転速度制御、スロットルバルブ開度制御及びエンジン電装品などの制御の概要、構造、作動について理解を深める。	
			1	可変バルブ機構の概要、構造、作動について理解を深める。	
			2・3	可変バルブ機構の概要、構造、作動について理解を深める。 排出ガスの種類、発生原理、低減方法について理解を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
自動車力学	講義	年単位時間	2	2	学 年	一年次
			前期	後期	教 員	阿波連 毅
			40	38	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	自動車の軸荷重、速度と加速度、圧力と応力、仕事率などの基礎知識や応用力等、国家整備士試験に対応する学力を身につける。
使用教科書・副教材等	レッスンに応じたプリント(教材) 国家整備士試験過去問(副教材)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	レポート・提出物	20 %			%
	学習に対する取り組み及び出席状況	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲	
第 一 期	前	① SI単位	4 ・ 5	SI単位を理解し、単位の換算等の応用力を習得。 単位の換算を応用とし、「速度」、「面積」、「体積」等の基礎的な問題に対応する力の習得。	①～⑩	
		② レッスン1(トルク)				
		③ レッスン2(ギヤ機構)	6	国家3級整備士試験レベル(②～⑤)に対応できる学力の習得。		
		④ レッスン3(出力/駆動力)				
		⑤ レッスン4(速度/車速/回速)				
	期	⑥ レッスン5(加速度)	7	国家3級整備士試験レベル(⑥～⑧)に対応できる学力の習得。		
		⑦ レッスン6(圧縮比/排気量)				
		⑧ レッスン7(ピストン・スピー	8	国家3級整備士試験レベル(⑨～⑩)に対応できる学力の習得。		
		⑨ レッスン8(伸び係数)				
		⑩ レッスン9(荷重割合Ⅰ)				
学 年	後	⑪ レッスン10(圧力)	10	国家2級整備士試験レベル(⑪～⑫)に対応できる学力の習得。	②～⑰	
		⑫ レッスン11(回転出力)	11 ・ 12	国家2級整備士試験レベル(⑬～⑭)に対応できる学力の習得。		
		⑬ レッスン12(遊星歯車)				
		⑭ レッスン13(荷重割合Ⅱ)	1	国家2級整備士試験レベル(⑮～⑯)に対応できる学力の習得。		
		⑮ レッスン14(荷重割合Ⅲ)				
	⑯ レッスン15(バルブタイミング)					
	期	⑰ 総まとめ	2	国家2級整備士試験レベル(⑰)に対応できる学力の習得。		
		3				

6 特記事項

計算問題を解く技巧のみではなく、機械的計算等は必要に応じてパワーポイント動画、シュミレータを駆使し作動、原理及び整備士試験との関連性を含め理解度を高めていく。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後前期	後後期	学 科	自動車整備科
自動車電気・電装	講義		3	3	4	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期		教 員	石橋 大輔
			60	65		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	近年自動車の電子化に伴い、その電気・電子の基礎及びハイブリッドや電気自動車の概要を学習し技術の向上へ役立てる。
使用教科書・副教材等	電装品構造(全国自動車整備専門学校協会) 二級自動車整備士(総合)(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	①電気の基礎	4	電気とは何かをしっかりと理解させ、今後の実習や授業をスムーズに学習できる基礎を作る。	①～⑤
	②計測	5		
	③磁気の基礎	6		
	④半導体	7	サーキットテスタの構造や電圧、電流、抵抗の計測方法について学習し理解させる。	⑥～⑩
	⑤モータと発電機	8	モータや発電機の原理を基礎から理解させる。	
学 年 期	⑥バッテリー	10	バッテリーの目的、構成部品の構造、機能について理解させる。充電及び充電方法の種類を学習し、充電中の電圧と比重の変化及び充電方法での注意事項を理解させる。	⑥～⑩
	⑦点火装置・予熱装置	11	点火装置・予熱装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	
	⑧始動装置	12	始動装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。リダクション・スタータの減速機構、緩衝装置、マグネットスイッチ、エンジンの始動特性、スタータの特性及び点検方法と性能テストについて理解させる。	
	⑨充電装置	1	充電装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。オルタネータの三相交流、整流、ボルテージ・レギュレータの働き及び充電制御機能及びオルタネータの点検及び性能試験について理解させる。	
	⑩灯火装置	2	灯火装置の目的、構成部品の構造、機能について理解させる。	
		3	ヘッド・ランプの点検・調整について理解させる。各種ランプの作動と点検を理解させる。	

6 特記事項

パワーポイントにて原理、作動を理解させる。必要に応じて構成部品を用意し、現物確認をしながら教科書と併せて理解度を高める。自動車整備士過去問題との関連を含め理解させる。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
自動車材料	講義		0	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	斉藤/阿波連
			0	19	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	一つ一つの部品の材料の概要、種類、特色、名称等の基本を理解する事で、部品の集合体である自動車での、使用例など学習し、シャシ・エンジン・ボディなどの興味と理解と深める。
使用教科書・副教材等	自動車材料(全国自動車大学校、整備専門学校協会) 自動車工学(一般社団法人 日本自動車整備振興連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期	
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期		4		
			5		
			6		
			7		
			8		
	後 期	①金属材料の性質 ②鉄鋼材料 ③非鉄金属材料 ④焼結合金 ⑤非金属材料 ⑥軽量化構造の材料	10	金属材料の性質と試験法、検査法の概要を学習する。	①～⑥
			11	鉄鋼材料の種類や用途、性質を学習し、理解を深める。	
			12	非鉄金属の種類、性質、焼結合金の概要を学習する。	
			1	非金属概要、種類、自動車への使用例など学習し、理解を深める。	
			2 ・ 3	自動車構造を学習し、部位による材料の違いなど理解を深める。	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
燃料・潤滑剤油脂	講義		1	0	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	斉藤 / 阿波連
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	内燃機関に使用される燃料や潤滑剤・油脂類の性質及び規格が理解出来る。
使用教科書・副教材等	内燃機関、燃料・油脂(全国自動車大学校・整備専門学校協会) 二級自動車整備士 総合(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車整備士 総合(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	自動車ディーラーにて一般整備・点検整備・車両検査業務などの実務経験あり

2 追試験基準

前期試験	定期考査 50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	出席率	20 %			%
	授業態度	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 燃料の概要	4	燃料の概要について理解を広げる	①～⑨
		② 石油精製法		ガソリン基材について理解を深める	
		③ ガソリンの性状と規格	5	ガソリンの性質や規格の理解を深める	
		④ 軽油の性状と規格		軽油の性質や規格の理解を深める	
		⑤ LPガスの性状と規格	6	LPGの性質や規格の理解を深める	
		⑥ 潤滑剤の概要		潤滑剤及びエンジンオイルの概要について理解を広げる	
		⑦ 摩擦力と潤滑作用	7	潤滑作用について理解を広げる	
		⑧ 潤滑油の製法と性状		グリースの種類や性質の理解を深める	
		⑨ 作動油や不凍液の概要	8	作動油や不凍液などの種類や性質の理解を深める	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントを使用し講義を行います。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
製図	講義		1	0	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	斉藤/阿波連
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	三角定規、コンパス等用具を正しく使用できる。 三角法による投影を理解して、点、直線、平面を表現できる。 正投影図及び等角図が描ける。
使用教科書・副教材等	基礎製図 練習ノート(実教出版)
教員実務経験	ディーラーで点検、一般整備としてトランス・ミッション/アクスル/ブレーキ/サスペンション/ディファレンシャル/ホイール・タイヤ等の整備及び検査

2 追試験基準

前期	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	提出物(練習ノート)	70 %	仮評価		%
	学習に対する取り組み及び出席状況	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	①練習ノート 利用方法	4	製図の概要について理解を深める。 製図用具の使い方を覚える。	⑥
		②練習ノート 解説1 文字と記号	5	図面の大きさ及び様式について理解を深める。 製図で使用される文字と記号について理解を深める。	
		③練習ノート 解説2 線	6	線の種類と用法について理解を深める。	
		④練習ノート 解説3 投影図 寸法記入	7	投影法とその種類の理解を深める。	
		⑤練習ノート 解説4、5 製作図	8	製作図を描けるようになり、線の意味、記号の意味を理解する。	
		⑥応用課題			
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
整備機器	講義		1	0	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	斉藤 / 阿波連
			20	0	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	整備作業時の正しい工具の選定及び、正しい工具の使い方を習得させる。更に自動車の点検、調整、測定、検査用機器、等の取り扱いを習得させ、自動車の整備、故障探究、自動車の検査時の良否の判定に活用させる。
使用教科書・副教材等	自動車整備工具・機器(全国自動車大学校、整備専門学校協会)
教員実務経験	国の検査場で自動車検査官として検査業務などを経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	60 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 学 年	前 期	① 測定概論	4	概要を踏まえ、必要性和安全性について知る。	①～⑨
		② 工具		基本的な工具の名前と使い方を習得する。	
		③ 作業用機器	5	機器の取扱いを熟知し、その危険性と安全な作業方法を習得する。	
		④ 電気装置・調整機器		電気装置に対して故障診断、計測、修正を行う機器を習得する。	
		⑤ エンジン点検・調整機器	6	エンジンに対して故障診断、計測、修正を行う機器について習得する。	
		⑥ 車両点検・調整機器		車両に対して故障診断、計測、修正を行う機器について習得する。	
		⑦ 自動車検査用機器	7	主に検査法を元に行われる車両を検査する機器について習得する。	
		⑧ 車体整備用機器		主に板金整備等に用いられる車体を修復する機器について習得する。	
		⑨ その他機器	8	その他機器について習得する。	
	後 期		10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

教科書をベースに作成したパワーポイントを使用し講義を行う。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
基礎実習 I	実習	年単位時間	3	3	学 年	一年次
			前期	後期	教 員	清水・平敷・石橋・斉藤
			60	57	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	・自動車整備工場にてサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員、自動車検査官としての経験

2 追試験基準

前期	定期考査 50点未満
後期	定期考査 50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	定期考査	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	20 %			%
	出席率	10 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 年 度	前 期	①基礎実習 I 概要 ・内容の周知、工具	4	①基礎実習 I 概要 ・実習内容の周知及び手持ち工具の用途、使い方などを習熟。	①～②
			5	②測定機器 ・ノギスを使用した測定の習熟。	
			6	②測定機器 ・マイクロメータを使用した測定の習熟。	
			7	②測定機器 ・ノギス、マイクロメータを使用した測定の習熟。	
			8	②測定機器 ・ダイヤルゲージ、シリンダゲージを使用した測定の習熟。	
	後 期	③2輪車の基礎 ・2輪車の構造 2サイクルエンジン分解・組付 駆動装置の構造の理解 ・電子工作キット(基礎)	10	③2輪車の基礎 ・4輪との違いを確認及び2サイクルエンジン 分解・組付け	③～④
			11		
			12	③2輪車の基礎 ・2輪車の駆動装置の構造を習熟。	
			1		
			2	④エンジンオーバーホール ・エンジンを分解、測定、良否判定、組付けをすることでエンジンオーバーホールの手順を習熟	
			2		

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
基礎実習 II	実習	年単位時間	14	14	学 年	一年次
			前期	後期	教 員	水・平敷・石橋・斉藤・阿波
			280	266	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	学科で学習した内容を実習にて実物を見て、実際に作業することにより理解を深める。 作業要領を習得し実践に役立つ技術を習得する。
使用教科書・副教材等	三級自動車ガソリン・エンジン(日本自動車整備振興会連合会) 三級自動車シャシ(日本自動車整備振興会連合会)
教員実務経験	・自動車整備工場にてサービスエンジニアとして一般整備、点検整備、自動車検査員としての経験

2 追試験基準

前期	実技試験 50%未満
後期	実技試験 50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	実技試験	70 %	仮評価		%
	学習への取り組み	30 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 年 学 年	前 期	① 機械操作実習	4	①リフト、ジャッキ、基本工具、特殊工具等(四輪と二輪)の使用方法を習得する。	①～⑥
		② ブレーキ基礎	5	②ディスクブレーキ、ドラムブレーキの構造の理解、分解、組付け、調整方法を習得する。	
		③ 電機基礎	6	③テスターの使用法、測定方法を習得する。	
		④ 点検(日常、6ヶ月)	7	④点検の必要性、点検の種類、点検箇所、良否判定を習得する。	
		⑤ 切削といしの取り扱い	8	⑤切削といしを使用する機械の取扱い及びいしの取替方法について習得する。	
		⑥ タイヤ空気充填		⑥タイヤ空気充填に伴う作業及び機器の取扱い等を習得する。を理解する。	
	後 期	⑦ ミッションM/T・クラッチ	10	⑦ミッション・クラッチを脱着し、各部品の構造、整備法を理解する。	⑦～⑮
		⑧ 燃料・点火	11	⑧燃料・点火装置の脱着、分解、組付けを行い仕組み点検方法を理解する。	
		⑨ エンジン脱着	12	⑨エンジンを脱着し、各部品の構造、点検整備法を理解する。	
		⑩ デフ・ドライブシャフト		⑩デフ・ドライブシャフトを脱着し、各部品の構造、整備法を理解する。	
		⑪ 過給機		⑪過給機の構造・作動方法の違いや特徴を理解する。	
		⑫ アライメント	1	⑫ホイール・アライメントの測定、調整を行い作業方法を理解する。	
		⑬ シャシ電装	2	⑬パワー・ウインド、ワイパー、灯火装置を脱着し仕組み作業方法を理解する。	
		⑭ FFミッション脱着A/T	3	⑭FFミッションATを脱着し、各部品の構造、点検整備法を理解する。	
		⑮ 可変バルブタイミング		⑮バルブタイミングコントローラとカムの作動状態を理解する。	

6 特記事項

--

科 目 名	授業方法	年単位時間	前期・後期	学 科	自動車整備科
企業研修	実習		35	学 年	一年次
				教員	平敷・石橋

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	実践的かつ専門的な職業教育の専攻分野の職業に係る勤労観及び継続的な学習意欲等の醸成、専攻分野の実務に必要となる知識、技術及び技能の修得を目的とする
---------	---

2 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	研修成果(報告書)	70 %
	研修活動への取り組み	30 %
		%
		%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期 ・ 後 期	①各専攻分野において学院及び企業との協議の上で決定する。	4	企業研修において研修学生が専攻分野に関する職業に必要な実践的かつ専門的な能力を修得するための職業教育及び指導等を行う。	①
			5		
			6		
			7		
			8		
			10		
			11		
			12		
			1		
			2		
			3		

6 特記事項

詳細事項に関しては、学院及び企業とで「職業教育に係る事業連携協定書」を締結し決定する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	自動車整備科
就職実務 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	38	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	【前期】就活以前の事前学習⇒基礎学力試験対策 【後期】企業の採用活動、就職活動を理解させると共に、必要な企業の情報収集方法等から応募関係書類の準備作成
使用教科書・副教材等	【前期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー(ウイネット) 【前期】就職試験サポートドリル(実務教育出版)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期	成績評価の50%未満
後期	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率 80%未満
後期	出席率 80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価(前期)課題評価(後期)	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	自己紹介(学生情報収集)	4	・学生との距離を詰め、学習や就活への取り組み方などを周知。 個人の能動的意欲を促進させる。	前期試験
		【面接対策&ビジネスマナー】 面接の重要性と 自己PRの作成 履歴書作成 企業説明会 【就職試験サポートドリル】 筆記試験対策 (一般常識を含む)	5	『面接対策&ビジネスマナー』を使用 ・社会人としての基本的なビジネスマナーについて学習する。	
			6	・面接の大切さを理解させる。 ・実践を想定した面接練習を行う。	
			7	・自己分析の重要性を理解させる。 ・実践を想定した自己PRを作り上げる。	
			8	『就職試験サポートドリル』を使用 ・随時小テストを実施し、学生の習熟具合を確認する。	
	後 期	【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	10	企業説明会 ・授業枠を使用して企業を誘致、学内にて説明会を開催。 ・採用実績のある企業が主体となり応募対象を絞り込む。 ・業界関係職種なども含めた幅広い情報をレポートに納める。 インターンシップ ・実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。 就職試験対策 ・応募企業の選定後、採用試験の受験を斡旋。 ・並行して採用試験に関する受験対策授業を実施。 (面接所作、一般常識などの筆記対策、履歴書作成など)	レポート 確認テスト
			11		
			12		
			1		
			2		
	期		3		

6 特記事項

『面接対策&ビジネスマナー』を使用し、社会人の基本的マナー及び 『就職試験サポートドリル』を使用し、基礎学力の向上、一般教養を前期にて併用学習する。 成績後期評価は企業説明会レポート課題評価とする。
